

# 板橋駅西口駅前広場

## 整備計画



板橋区

1. 計画の位置づけ
2. 板橋駅周辺の現況
3. 駅前広場の整備目標
4. 駅前広場の整備計画
5. 検討経緯
6. 駅前広場の利活用

## はじめに

板橋駅西口周辺地区は、JR板橋駅・都営三田線新板橋駅・東武東上線下板橋駅の3線3駅が徒歩圏内にあり、交通の利便性がとても高い地区です。さらに江戸時代は中山道の最初の宿場町として栄え、戦後には駅を中心に商店街が形成され、にぎわいのあるまちとして発展してきました。

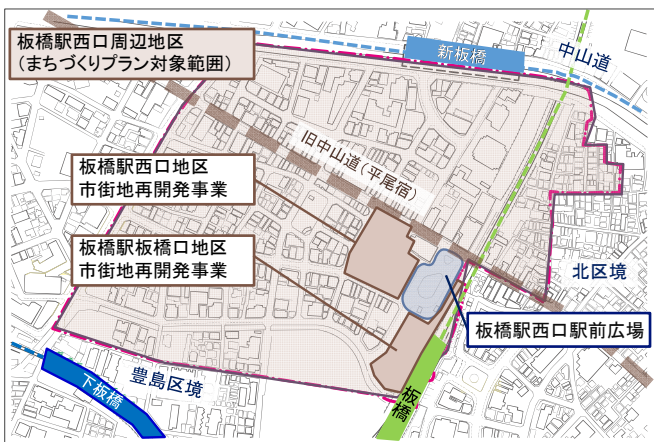
一方、駅前広場については整備から約50年が経過し、各施設が老朽化しています。さらに、交通処理や歩行者の安全性、利便性などの交通結節機能の課題や、にぎわい・憩い・交流といった広場機能の不足といった課題もあります。

区では、都市の質を戦略的に高めるための将来の都市づくりの方針を取りまとめた『板橋区都市づくりビジョン』を策定したほか、今後のまちづくりの方向性を示した『板橋駅西口周辺地区まちづくりプラン』を策定し、まちづくりを進めています。また、国連が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）の国際目標と合わせ『「東京で一番住みたくなるまち」として評価されるまち』をめざしています。

このような区のまちづくり方針などにに基づき、板橋駅板橋口地区と板橋駅西口地区の2つの市街地再開発事業を契機とし、両再開発事業と調和を図りながら、区の玄関にふさわしい個性と魅力ある駅前広場を再整備する必要があります。

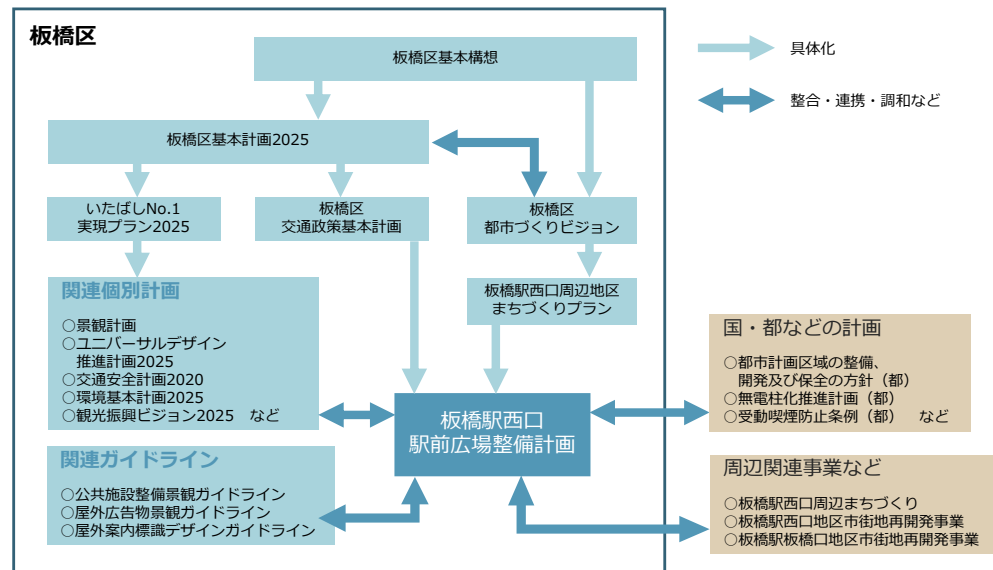
本計画は、詳細な設計に進むための基本計画として、駅前広場の整備方針や整備内容をまとめた計画とします。

板橋駅西口周辺地区 概略地図



## 1. 計画の位置づけ

ー 本計画は「板橋駅西口周辺地区まちづくりプラン（平成27年3月）」の具体化計画の一つとして、ハード・ソフト面の具体的な将来像を定める設計前の整備計画として位置づけます。ー



このアイコンは、4.駅前広場の整備計画で説明する整備コンセプトの要素につながります。

緑 人 商業 歴史 未来

### 【SDGs 持続可能な開発目標】

板橋区では、地方自治体における地域資源やエネルギー補完による循環共生型の社会づくり、環境教育などの取り組みを進めています。また、国や都、区民、事業者と連携協働のもと、区としてSDGsの目標達成に寄与していきます。



板橋区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

- 3.すべての人に健康と福祉を
  - ・道路形状変更に伴う安全性向上
  - ・ユニバーサルデザインに配慮した施設整備
- 7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに
  - ・利便性の向上による公共交通の利用促進
  - ・シェアサイクルの利用促進
- 9.産業と技術革新の基盤をつくろう
  - ・食や地域の産業の交流、発信
  - ・活性化を促す広場の利活用
  - ・にぎわい創出とまちの活性化
- 11.住み続けられるまちづくりを
  - ・鉄道3線の利便性向上
  - ・バス・タクシーの乗り場集約

### 【デジタルトランスフォーメーション (DX)】

近年飛躍している自動車運転技術やMaaS\*といったICT\*や、IoT\*を活用した新技術、環境性、経済性に優れたシェアリングなど、交通結節機能をもつ新たな駅前広場への活用が期待されます。DXにより、生活の利便性や効率性、満足度などを向上させ、暮らしが豊かになる駅前広場をめざします。

\*MaaS：出発地から目的地までの移動要望に対し、最適な移動手段を円滑に提供する概念。ICT：情報・通信に関する技術の総称。IoT：多種多様なモノがインターネットに接続され、相互に情報をやり取りすること。

## 2. 板橋駅周辺の現況

— 板橋駅周辺の施設や歴史について整理します。 —

### 【教育施設】

大学や高校だけでなく、インターナショナルスクールもあり、幅広い年代及び国を越えた地域の方が集まっています。

### 【医療施設】

クリニックや歯科医院など普段利用する医療機関だけでなく、大学病院や総合病院など多様な形態の医療施設が充実しています。



東京家政大学



帝京大学医学部附属病院

### 【緑】

板橋には江戸時代から板橋宿の名所である『縁切り榎』がありますが、この榎と関連付けて板橋のシンボルとなっているのが駅前広場にある『むすびのけやき』です。けやきは板橋の木でもあり、ますます発展する板橋区を象徴しています。また、板橋駅を利用し多くの人が、満開に咲き誇る石神井川の桜の見物に訪れます。



むすびのけやき



石神井川の桜

### 【公園】

子どもの足でも行くことのできる距離に板橋駅前公園や南板橋公園があります。緑を感じることができ、子どもが喜ぶ大型遊具で遊ぶことができます。また、自転車を利用すれば、板橋こども動物園を有する東板橋公園や、令和3年12月オープン予定の植村冒険館と複合化したスポーツ施設である(仮称)植村直己スポーツセンター、加賀の歴史や史跡を追想することのできる加賀公園などがあります。



板橋こども動物園



(仮称) 植村直己スポーツセンター (イメージ写真)

### 【歴史】

江戸時代、板橋宿は、江戸と京都を結ぶ中山道の最初の宿場町であり、大都市江戸の出入り口として交通流通などの面で重要な役割を担っていました。当時の様子が木曾街道六十九次「板橋之驛」で描かれており、沿道には、茶屋や旅籠が立ち並んでいました。



木曾街道 板橋之驛



明治時代の板橋

### 【板橋】

旧中山道が石神井川を渡る地点にかけられた木製の太鼓橋で、区名の由来とされています。

### 【産業、商店街】

宿場の歴史のほか、JR板橋駅の開設、加賀地域から始まる工業の集積により多くの人が集まりました。周辺には、6つの商店街があり、地域に根差した様々な商店でにぎわっています。



商店街map



駅周辺の商店街

## 周辺再開発事業

— 現在、板橋駅周辺では2つの再開発事業が進められています。駅周辺に必要な都市機能の集約とにぎわい、交流の創出を図ります。 —

### 板橋駅板橋口地区市街地再開発事業



#### 方針

板橋区の玄関にふさわしい暮らしやすく活気あふれるゲートウェイ

1. 区の玄関にふさわしい住宅・商業公益施設等の複合施設の整備
2. 周辺地域との回遊性を高める歩行者ネットワークの形成
3. 公益施設によるにぎわいと交流拠点の形成

### 板橋駅西口地区市街地再開発事業



#### 方針

板橋区の玄関にふさわしいにぎわいのある複合市街地安全・安心で魅力ある駅前環境の形成

1. 板橋駅前拠点にふさわしい公益施設等の整備
2. 板橋区の顔づくりに寄与する魅力ある複合市街地の形成
3. 周辺地区との連携を高める歩行者ネットワーク
4. みどりの拠点の創出と周辺地区に貢献する広場の整備
5. 旧中山道の面影を活かしたにぎわいある街並みの形成

## 3. 駅前広場の整備目標

— 地域まちづくりの上位計画である「板橋駅西口周辺地区まちづくりプラン」で策定した、「安心・安全」「にぎわい」のキーワードに基づき、以下のような駅前広場を目標とします。 —

板橋駅西口周辺地区まちづくりプラン（平成27年3月）

安全で安心なまち

板橋区の玄関に  
ふさわしいまち

誰もが暮らしやすく、  
活気にあふれたまち

### 整備目標

#### 安心・安全な駅前広場

全ての人々が安心・安全に利用することができる歩道整備

他の交通手段と乗り換えしやすい駅前広場整備

非常時に利用可能な空間整備

#### 板橋区の玄関・顔に ふさわしい駅前広場

周辺景観と調和のとれた駅前広場整備

板橋らしさ・旧中山道の趣を感じることができる駅前広場整備

#### にぎわいや憩いのある 駅前広場

周辺と一体となつてにぎわいを生み出すことができる空間整備

身近なところで緑を感じることができる空間整備

## 4. 駅前広場の整備計画

### 整備コンセプト

— 整備に向けて、基本的な考え方を整理します。 —

## 人とまちを結ぶ板橋の玄関

～住んでいる人は、我が家に帰ってきたと思い、訪れた人は、魅力を感じることでできる広場～



### 再開発事業の基本方針

#### 板橋駅板橋口地区市街地再開発事業

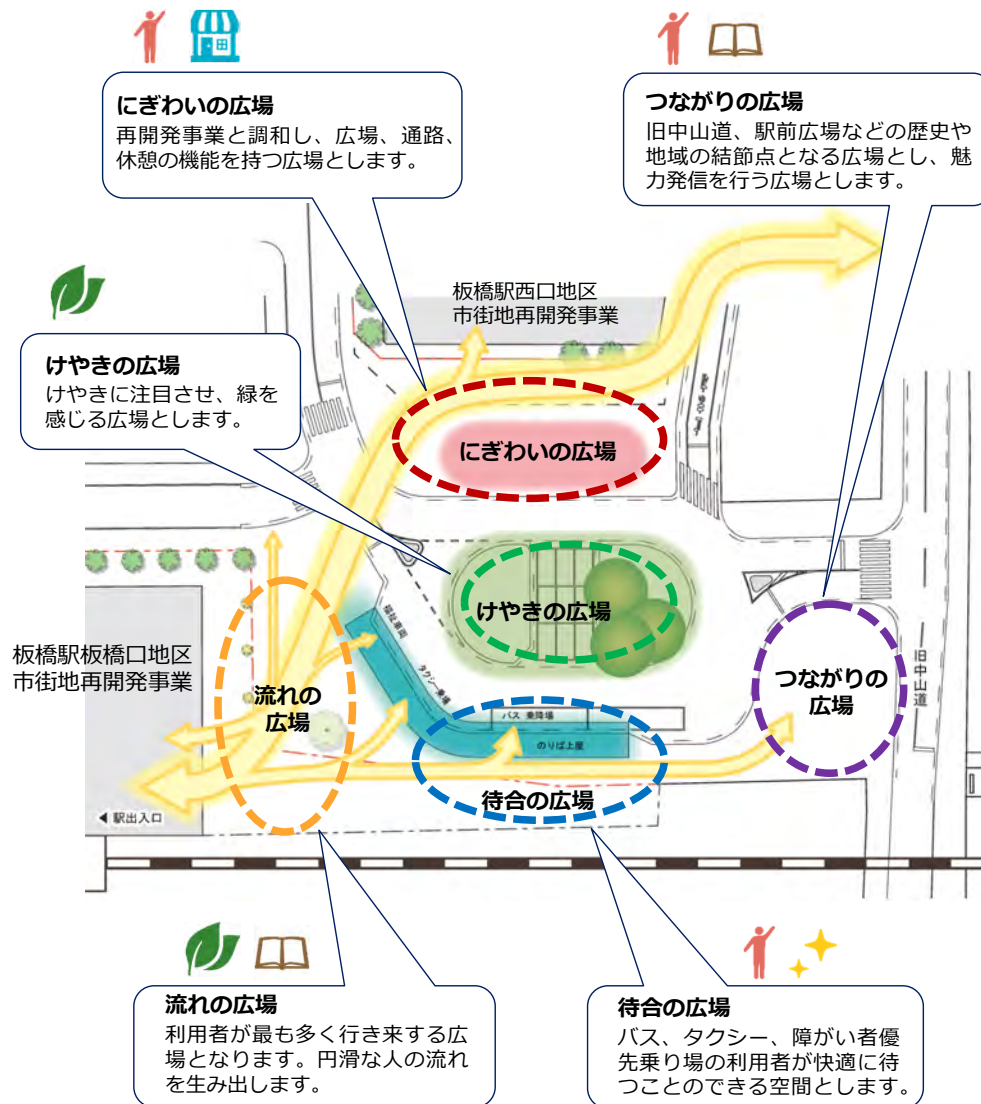
- ・板橋区の玄関にふさわしい暮らしやすく活気あふれるゲートウェイ

#### 板橋駅西口地区市街地再開発事業

- ・板橋区の玄関にふさわしいにぎわいのある複合市街地
- ・安全・安心で魅力ある駅前環境の形成

### 5つのゾーニング

— 駅前広場をその場所の性格に応じてゾーニングを行います。 —



# 道路形状の整備方針

— 交通処理の課題や、利便性の向上やにぎわい空間が不足している課題を踏まえ、以下のような道路形状とします。—

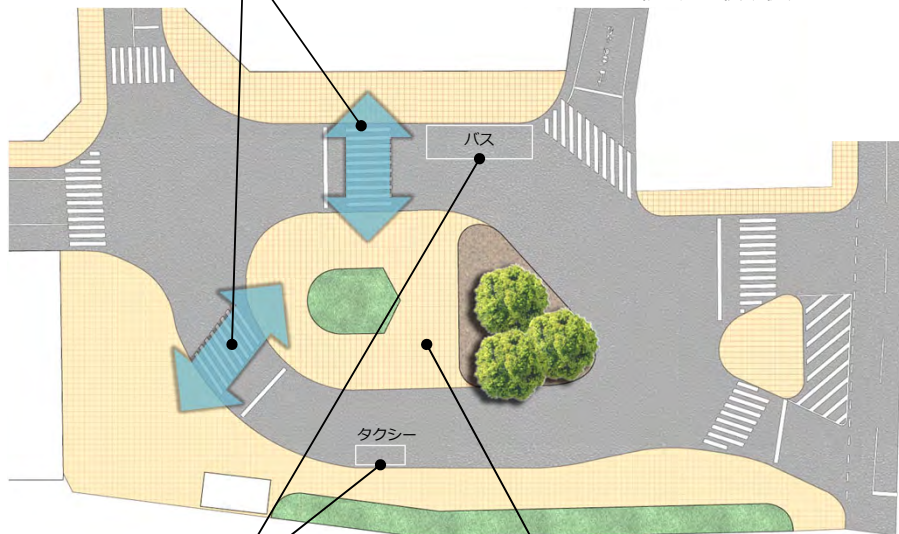
## 整備前

### 1.安全上の課題

駅間を往来する人が駅前広場内を利用する際に、2回車道を横断しなければならず、また横断抑止柵が連続して設置できないため、無秩序に横断する歩行者が多い状況です。



朝の道路横断状況



### 2.利便性の課題

バス停がJR板橋駅から離れた位置に配置されています。また、福祉車両乗り場が整備されていません。



離れているバス・タクシーの乗り場

### 3.にぎわい空間の不足

道路が駅前広場面積の多くを占めており、イベントなどを開催できるような空間が少ない状況にあります。



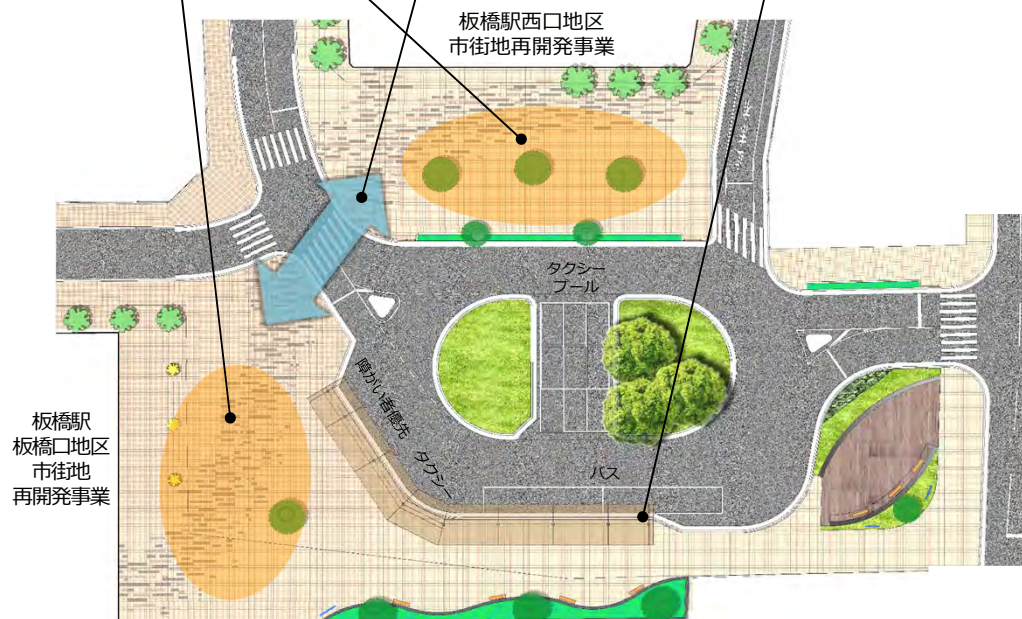
中央島の利用状況

## 整備後

1.安全性の高い交通結節点の整備  
車道横断の少ない乗り換え経路とします。

2.交通結節機能・利便性の向上  
利便性の向上を目的とした乗り場を配置します。

3.にぎわい空間の創出  
魅力的でにぎわいと活気にあふれた空間を創出します。



※タクシープールの台数は今後の利用動向を考慮し決定します。また、法的及び構造的に問題がある場合、形状を変更する可能性があります。



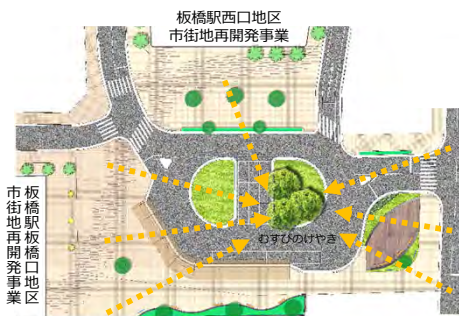
整備後の横断歩道イメージ  
(板橋駅西口地区再開発から見た板橋駅)



整備後のバス・タクシー乗り場イメージ

# エリア別の整備方針

Point1. 「むすびのけやき」を印象付けます。

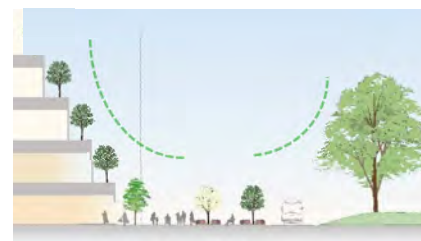


周辺からアクセスするとき、けやきがアイキャッチ（目を引きつけるもの）となるように見通しを確保します。

Point2. 再開発事業とにぎわいや景観の融合を図る計画とします。



再開発事業の低層に入る商業施設とにぎわいや景観の融合を図り、一体的な利用が可能なスペースを確保します。



板橋駅西口地区再開発事業でイメージしている山の斜面、けやきを中心とした緑化空間を共有する植栽高さを設定します。

Point3. 歴史が育んだ機能を継続する計画とします。

人の流れ



休息



空間機能として、人の流れと休息を表現します。



## にぎわいの広場

- ベンチと一体となった植栽で人の流れと休息の空間を分節します。
- 日常的な利用では、一休みできるベンチと緑の空間を計画します。
- イベント時には多様な利用形態が可能な広がり確保します。



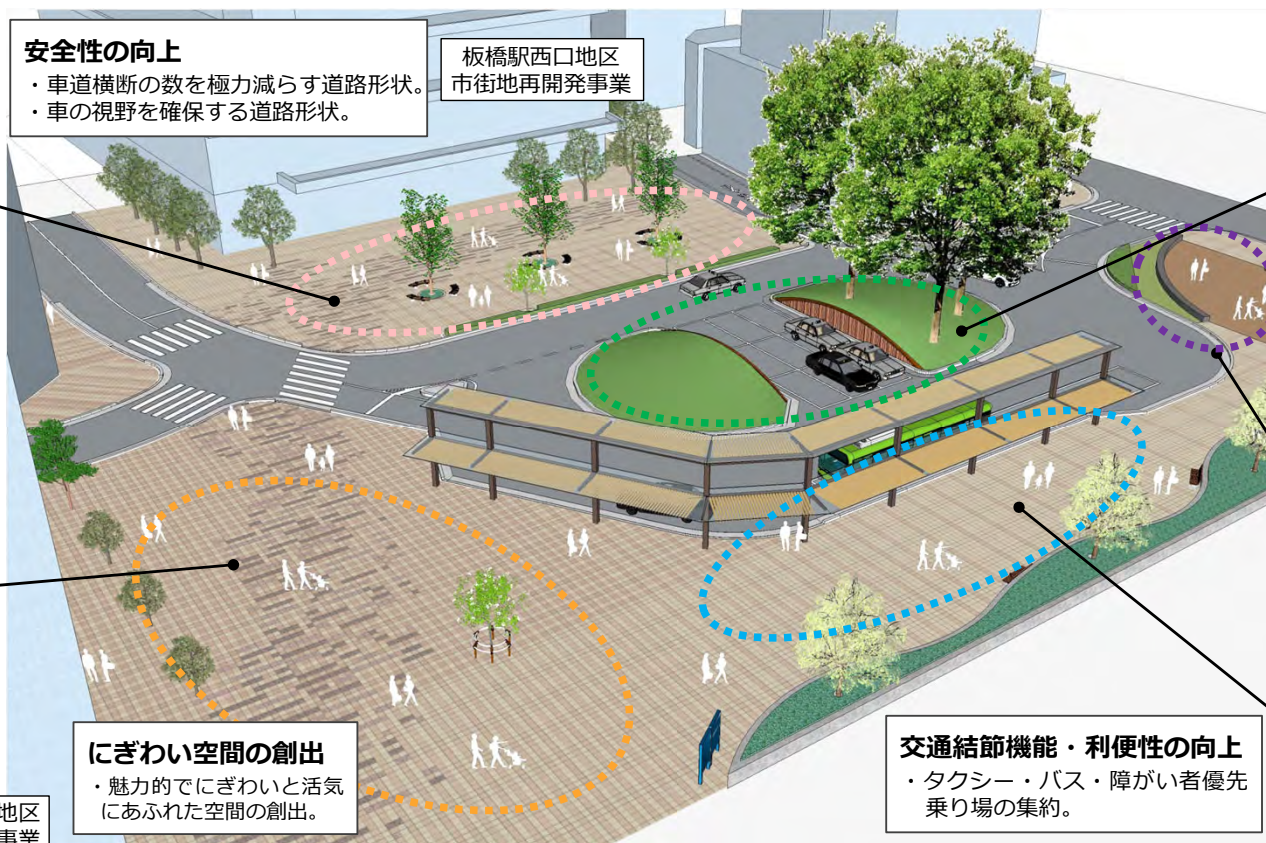
## 流れの広場

- 舗装の配色により新板橋駅方面と待合の広場方面へ歩行者の流れをわかりやすく導きます。
- 円滑な動線及び非常時に利用可能な空間を確保するため、障害となる工作物の設置は避けます。
- 歩行者動線を分節する位置に、広場のアイキャッチとなる樹木を配置し、緑を印象付けます。
- 玄関口として、周辺地図を含む公共施設や観光地を表示するサインを設置します。

## 安全性の向上

- 車道横断の数を極力減らす道路形状。
- 車の視野を確保する道路形状。

板橋駅西口地区市街地再開発事業



## にぎわい空間の創出

- 魅力的でにぎわいと活気にあふれた空間の創出。

板橋駅板橋口地区市街地再開発事業



## けやきの広場

- けやきを象徴的・高質的に表現するほか、タクシープールに停車しているタクシーを目立たなくするため、植栽ゾーンをマウンドさせます。
- イベント利用や災害時の帰宅困難者の滞在など、非日常的な場面において多様な活用が可能となる空間とします。



## つながりの広場

- 旧中山道によって繋がる板橋区の玄関であるため、板橋の魅力発信を行うサインを設置します。
- 子供連れでも居心地良い環境を創出するため、けやき及び電車を意識させる位置にベンチを配置します。
- ※当広場で、トイレ・喫煙所・駐輪場・シェアサイクルの設置について検討します。



## 待合の広場

- バス、タクシー利用者の待合となるため、快適に待合ができる空間をつくります。

## 交通結節機能・利便性の向上

- タクシー・バス・障がい者優先乗り場の集約。

※両再開発事業区域の整備内容は検討中のため、変更の可能性があります。

Point.歴史的記憶の継承と未来への創出をイメージした施設を整備します。

### 板橋宿の往時を推測する



旅籠の木造建築の外壁は、内部から街道の様子が分かるように格子が設けられていたため、施設に格子をイメージさせます。

江戸茶 団十郎茶 璃寛茶

江戸時代、庶民は茶色を地味だが奥深い色とし楽しんでいました。また、当時の橋や建物の部材は木材が使われていたため、色彩イメージを茶色とします。

### 未来への輝き



陽の光、木漏れ日を活かし、区の明るい未来を表現します。



### 駅前広場

形状イメージ：格子  
材質イメージ：木質

色彩イメージ：茶

活用イメージ：ガラスや樹木

### 再開発事業のイメージ（参考）

西口：すだれ

西口：ブラウン、無彩色  
板橋口：アースカラー

西口：複合市街地  
板橋口：ゲートウェイ

### 歩道舗装

板橋宿をイメージさせる茶系統の色調とし、舗装パターンは格子戸をモチーフとした格子模様を基本とします。また主要な歩行者動線をやわらかく導き、自然に再開発事業建物、駅や商店街へ繋がっていく流れを表現します。



歩道舗装パターン図

### 植栽

新緑や落葉を楽しめる落葉樹を配置します。また、花の咲く樹木や紅葉する樹木など季節感をさらに高める樹種を選定します。

春夏秋：木陰を作り出します。



冬：太陽が恋しい冬は、落葉して光溢れる空間となります。



### ベンチ

ベンチは、周囲の緑やまちの風景、通り過ぎる人々など、思い思いの方向に視線を向けることのできる形とし、社会情勢における新しい生活習慣を意識した間隔で設置します。また、設置場所により一休みできる腰を据える形のベンチや、両再開発事業と調和するデザインのベンチを選定します。



### 上屋

けやきへの視野を確保するため存在感を出さない形とします。歴史的な雰囲気を持たせるために木質を感じる素材を用いるとともに、陽の光を感じるガラスなど近代的な素材も融合したデザインとして、歴史と未来の融合を表現します。



### サイン

板橋区屋外案内標識デザインガイドラインに基づきサインを設置します。サインには公共施設への案内、歴史、観光資源の解説など区の魅力発信に関する情報を表示します。



## イメージ図



駅前広場西側からの鳥瞰イメージ



駅前広場南側からの鳥瞰イメージ

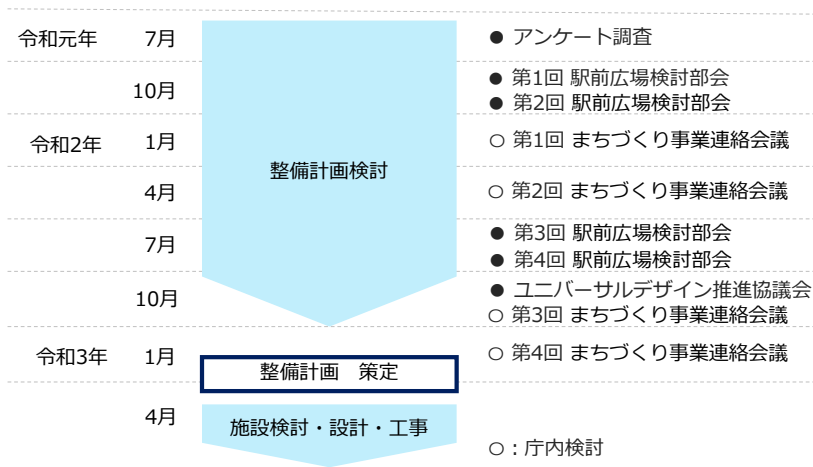
※ サインや横断抑止柵などの施設は、詳細設計の段階で維持管理を考慮し選定します。

### ☆ 施設計画（トイレ・喫煙所など）

板橋区の玄関にふさわしい個性と魅力ある駅前広場として、また高齢者、障がい者などを含むすべての人にとって利用しやすい駅前広場をめざし、現在設置されているトイレ、喫煙所、駐輪場だけでなく、近年利用者が多いシェアサイクルを含め検討しています。広場利用者からは、トイレが汚いこと、煙草の煙や吸殻を捨てられることによる環境悪化が問題視されていることがアンケート調査により分かりました。また、コロナ禍による社会情勢や利用動向、両再開発事業により設置される施設との兼ね合いにも注視する必要がありますため、引き続き将来の駅前広場に必要施設を検討します。

## 5. 検討経緯

策定にあたっては、駅前広場利用者を対象としたアンケート調査、駅前広場検討部会（ワークショップ）、ユニバーサルデザイン推進協議会や庁内関係組織からなる板橋区まちづくり事業連絡会議などから意見をいただきました。今後は本計画に基づき、駅前広場のトイレ・喫煙所など施設検討、設計を行い、両再開発事業の進捗に合わせて整備します。



## ユニバーサルデザイン推進協議会

板橋区では、ユニバーサルデザインの総合的な推進に寄与することを目的とし、東京都板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会を設置しています。令和2年9月11日に開催された第57回推進協議会にて、駅前広場の整備について意見をいただきました。いただいた以下の意見などを含め、今後の設計に向けて検討いたします。

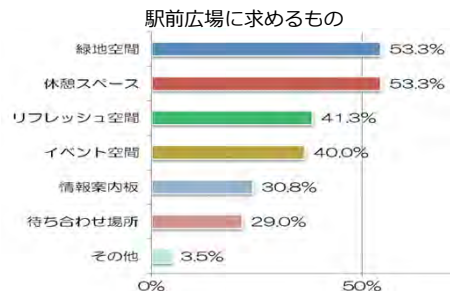
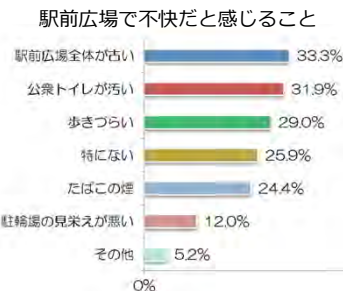
- ・タクシー乗り場やバス乗り場に上屋を設置すること。
- ・タクシー乗り場の段差を解消すること。
- ・歩道舗装を滑りにくい素材にすること。



## アンケート調査

令和元年7月に、板橋駅西口周辺地区を含む地域住民と駅前広場利用者を対象に、携帯キャリアを活用したインターネットアンケートなどを実施しました。アンケートでは、利用目的、思い浮かべるもの、求めるものなど14項目について行い、1,338件回答をいただきました。

集計した結果、駅前広場が古い印象を持つことや、緑地空間や休憩スペースの機能を充実してほしいなどの意見をいただきました。



## 駅前広場検討部会（ワークショップ）

地域住民、商店街の代表や公募区民で構成されている、板橋駅西口周辺地区まちづくり勉強会の駅前広場検討部会から様々なご意見をいただきました。

回数	開催年月	開催概要	主な意見
第1回	令和元年 9月	色彩・歴史性・空間の使い方を軸とした新しい駅前広場のイメージについて	・緑を活かし、ベンチを配置しにぎわいを創出したい。 ・歴史的か現代的か、再開発とのバランスを考えるべき。
第2回	令和元年 12月	上屋、照明、案内サイン、舗装のデザインについて	(上屋について) ・木目を生かし、明るさが欲しい。 (歩道舗装について) ・茶系の落ち着いた色にしてほしい。
第3回	令和2年 7月	駅前広場の日常的利用やイベントなどを意識した利活用の想定。ベンチや植栽などの施設配置のあり方について	(全体意見) ・中央島を高くすれば、乱横断しづらいのではないか。 ・駅前に待ち合わせ空間を確保してほしい。 ・歴史感ある施設や板橋宿を発信する工夫をすべき。 (利活用に関する意見) ・歩行者動線を阻害しない高木の本数がいいのではないか。 ・車道を一部交通規制した場合、イベント時にステージなどで活用できそうな中央島がいいのではないか。 (ベンチや植栽などに関する意見) ・四季が感じられる樹木を配置したい。
第4回	令和2年 8月	駅前広場の利活用や歩道舗装、照明、植栽などの配置物に関するあり方について	・緑陰を利用したベンチの配置、木目調のベンチ。 ・駅広の線形、他の施設配置に合わせたベンチの配置。 ・上屋は両再開発事業との調和を図ったほうが良い。



## 板橋区まちづくり事業連絡会議 駅前広場整備分科会

代表	都市整備部地区整備事業担当課、土木部計画課	
構成員	政策経営部	政策企画課、財政課、施設経営課
	資源環境部	資源循環推進課
	都市整備部	都市計画課
	土木部	管理課、交通安全課、工事課、みどりと公園課、公園整備担当課



## 6. 駅前広場の利活用

将来的に整備される駅前広場の広場空間とともに、再開発の広場空間を一体的に利活用することで、板橋駅周辺のにぎわいや交流を促進し、地域の魅力向上をめざします。広場空間活用の企画・運営については、官民が連携したエリアマネジメント組織の検討を進めます。下記の項目が利活用の一例です。

- ・むすびのけやきを活かした新たな魅力創出
- ・周辺地域や再開発ビルの商業施設と連携したイベント
- ・一時避難時や、帰宅困難者が避難した場合の活用
- ・キッチンカーを呼んだ食のイベント など



板橋駅西口駅前広場整備計画

編集：板橋区 都市整備部 拠点整備課  
〒173-8501 東京都板橋区板橋2-66-1  
TEL 03-3579-2556

刊行物番号：R02-125